

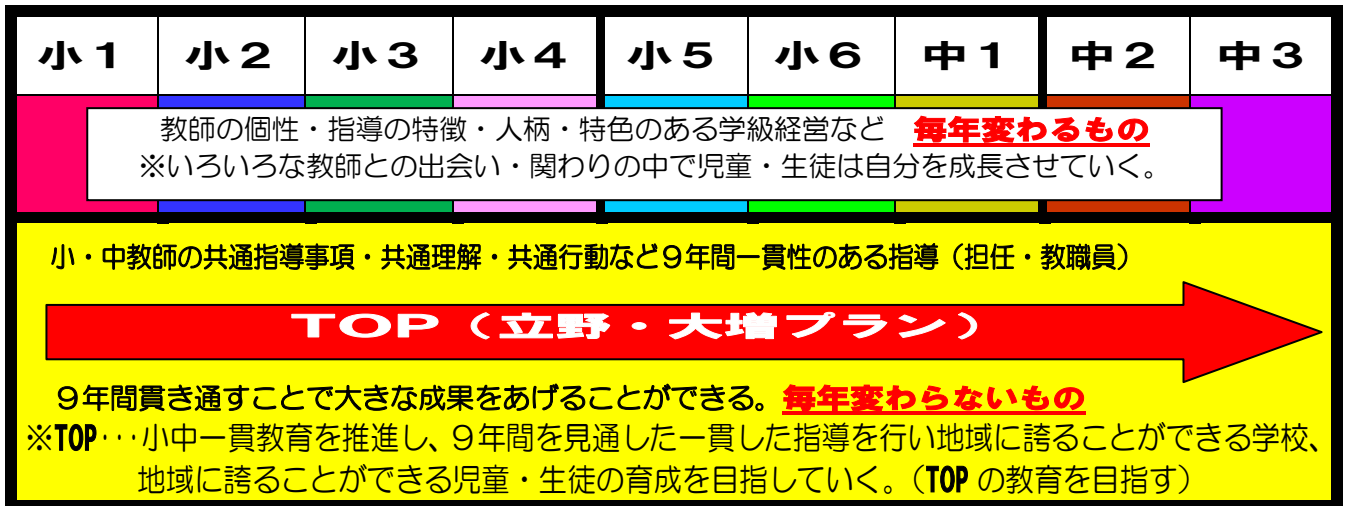
研究主題 「一人一人を大切に、信頼関係に立つ教育の推進」に関する本校の実践

春日部市立立野小学校

1 教師と児童生徒の信頼関係を築くために、あるいは、いじめ・暴力行為・不登校等の生徒指導上の課題を解決するために、小・中連携（小中一貫）も含めて具体的にどのような取り組みをしているか。

はじめに

本校は昭和 5 2 年に開校して、3 7 年目をむかえる。春日部の西部に位置し、落ち着いた住宅地に囲まれている。近くには、官公庁や教育、体育施設があり学校の南側には田園風景が広がる教育にも恵まれた環境である。児童数は、6 7 7 名、教職員は 3 5 名で「心身共に健康で、生きる力のある児童の育成」を学校目標に掲げ、学校づくりに励んでいる。また、大增中学校とは、一中学校区一小学校という関係にあり、連携が取りやすい状況にある。幸いにも 2 3 年度は、生徒指導における小中一貫推進モデル事業、2 4、2 5 年度は、小中一貫教育推進事業の委嘱を受け研究を進めている。本学区では、配慮を要する児童や家庭環境が多様化・複雑化している児童が増加してきている。そのような実態を踏まえ、本校では、大增中学校との連携を強化し、9 年間を貫き通す「TOP（立野・大增プラン）」を基盤に、小中一貫教育を推進している。



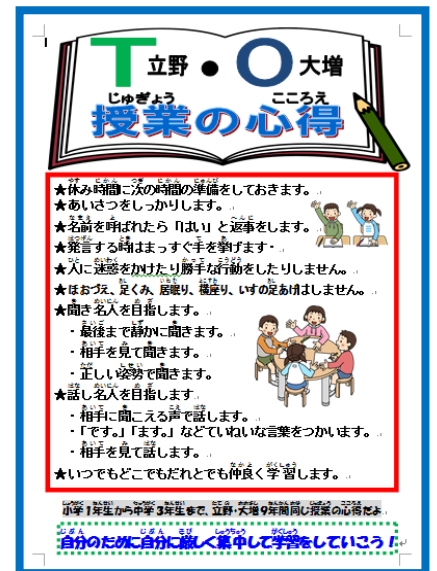
具体的な取り組み

(1) 小・中共通のきまりを作成し徹底を目指す

T0 授業の心得【資料 1】を作成し、小・中学校すべての授業の心得として児童・生徒へ指導している。また、小学校では、「あいさつ名人」・「そうじ名人」・「廊下歩行名人」【資料 2】の育成を目指して繰り返し指導している。中学校では、同じ内容のものを「T0 しぐさあいさつ」「T0 しぐさそうじ」「T0 しぐさ廊下歩行」【資料 3】として継続して指導するようにしている。さらに、共通理解・共通行動の内容を具体的に決めて指導の徹底を目指している。当たり前のことを当たり前に全職員が意識的に行うことで大きな成果を上げている。

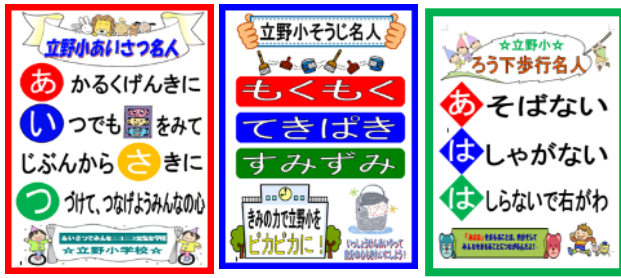
<例>

- あいさつに関して【自分から気持ちのいいあいさつをした児童を学級・学年に関係なくほめる。】
 - ろう下歩行に関して【走っている児童をみかけたら学級・学年に関係なくやり直しをさせる。】
 - そうじに関して【1 日 1 回はそうじ場所を見回りに児童へ声かけをする。】
- など



【資料 1】

【資料2】小学校掲示物



【資料3】中学校掲示物



(2) 児童・生徒の交流

●中学生が小学校であいさつ運動



●夏休みの算数教室で中学生が指導



●小学生が中学校であいさつ運動



●運動会において陸上部のアトラクション



●小中合同縦割りあいさつ運動



●音楽の広場における吹奏楽部コンサート



●陸上大会に向けて中学校陸上部の指導



●図工、美術の作品交流（ギャラリー）



「まずはやってみよう！」を合言葉に小中学生の交流する機会を増やしてきた。そのような中で、小学生が抱いている中学生に対しての「なんとなくの怖さ」は「親しみ」や「敬意」へと変わり、中学生は、「先輩としての自覚や誇り」が育ってきている。交流での児童・生徒の表情は大変生き生きとしている。

(3) 教師相互の交流・情報の引き継ぎ

●中学校教師との算数IT授業



●小・中合同研修会の開催



●小学校栄養教諭による中学校食育授業



●中学校教師による小学校での出前授業



- 相互授業参観
- お互いの研究授業・研究協議会への参加
- お互いの生徒指導委員会への参加
- 生徒指導ファイルの引き継ぎ
- 個別の支援計画の引き継ぎ
- 学力の実態・QUの結果の引き継ぎ
- 小中合同教科等部会

両校の教員の交流を増やしお互いの学校文化を理解することに努めている。その結果、小学校を卒業して、中学校で活躍する生徒の姿を見たり聞いたりする機会が多くなり、自分たちが関わった生徒の成長を知ることによって9年間を見通して指導していくことの大切さを実感する小学校の教員が増えた。また、様々な情報を中学校へ提供していくことで指導の継続性が生まれている。そのような中で小中一貫教育推進への意識が少しずつ高まってきている。

おわりに

以上のような実践を行うことで少しずつ児童・生徒が変容してきて手応えを感じている。一人一人を大切に、信頼関係に立つ教育の推進とは、日常のほんの僅かな心配りの積み重ねと、専門職としての力量、普段の意図的・継続的な取り組みによって可能になるものである。今後も大增中学校との連携を強化し一人一人の児童にとって最適な生徒指導を行い、信頼関係がより確立されるように生徒指導主任として努力していく決意である。